

新店長紹介



LIXILリフォームショップ三和
店長 飯澤 信行

二級建築士/福祉住環境コーディネーター3級/
特別管理産業廃棄物管理責任者/
健康住宅アドバイザー/CASBEE 戸建評価員

三和住建で長い間設計士として皆様に育てて頂いた飯澤が、今、リフォーム専門の関連会社「三和株式会社」の店長として頑張っています。人一倍、情に厚く、熱い思いをいつも胸に抱いている…そんな飯澤が、設計士として培ってきた知識や経験をリフォームの分野で活かし、皆様のお役に立てるよう精進してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

お気軽に
お問合せ下さい!

LIXILリフォームショップ三和
(三和株式会社)
TEL 042-794-0320



町田市表彰式

5月13日、三和住建取締役会長 志水勇祐が町田市長より表彰を受けました。長年にわたって福祉のまちづくり推進協議会委員会に携わり、福祉のまちづくりの普及推進に尽力してきた功労を讃えていただきました。

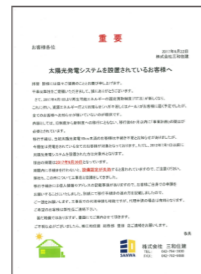


町田市文化交流センターにて

太陽光発電システムを設置されているお客様へ 手続きはもうお済みですか?

2012年7月1日以降に太陽光発電システムを設置されたお客様は、再生可能エネルギー固定買い取り制度の変更に伴い、移行手続きが必要です。対象のお客様には、右のお知らせをお送りしています。手続きがお済でない方は、お急ぎ下さい。ご不明な点はお問い合わせ下さい。

申請期限：
9月30日



地震や災害に強い家を 建てるには?

10月14日(土)開講

時間： 午前 10:30~12:00
(受付開始10:00~)
場所： 住宅展示場「TRETTIO」

国語

社会

- ・言葉を知ろう! ZEH(ゼッチ)とは?
- ・地震や災害に強い家を建てるには?
- ・かしこいマイホームの建て時っていつ?

定期セミナー開講 | 予約不要 | 参加無料

編集 後記

楽しかった夏休みもあっという間に終わり、ツクツクボウシの鳴き声に秋の訪れを感じるようになりました。今年の初夏は日本の各地で豪雨による洪水や土砂災害が起き、災害発生時の備えについて、改めて考えさせられました。”いつ起きるか分からない、いつ起きてもおかしくない”災害に対して、ふだんからどのような準備をしておけば良いか、どのような行動をとったら良いか、ご家庭で定期的に話し合っておきたいですね。

さて三和住建では今秋より、町田市成瀬台にて分譲住宅販売を展開する予定です。詳しいことが決まりましたらホームページ等でお知らせしますので、新築住宅をご検討中の方がお近くにいらっしゃいましたらご紹介頂けると幸いです。



いちばんに、
暮らす家族のコト。

〒194-0035 東京都町田市忠生3-7-15
株式会社 三和 住建
TEL 042-794-3030

http://www.sanwajuken.com

ISO9001 14001 認証取得 ハウス・オブ・ザ・イヤー・2016 4年連続受賞



さんわ四季報

2017年秋号
Vol. 63

残暑お見舞い申し上げます。
暦の上ではもう秋とはいえ、まだまだ暑い日が続いておりますが、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。
私共も暑さに負けず、社員一同お客様の住まい造りに励んでおります。
夏の疲れが出やすい頃ですので、どうぞお体ご自愛下さいませようお祈り申し上げます。
平成29年 晩夏 代表取締役 志水 哲也
社員一同



IoTが変える 未来の暮らし

最近よく耳にする「IoT」という言葉。Internet of Thingsの略で、日本語では“モノのインターネット”と訳されています。住宅設備や家電、車や時計など身の回りのモノに通信機能を持たせ、インターネットを介してスマートフォンなどの端末と相互に情報のやりとりができるようになることで、新たなサービスや産業を生み出し、私たちの暮らしを大きく変える可能性を秘めています。

【懇談会で紹介された先進的なサービス事例】

健康の維持・増進
(専門機関と連携、個人の健康管理)

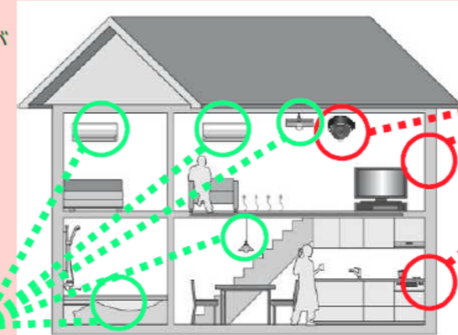
住宅で取得したバイタルデータ
(血圧、体温、脈拍、体重)を医師が
遠隔診断



住戸内の温熱環境等を踏まえた
住宅設備機器や家電の最適制御

省エネルギー化・省資源化
(スマートメーター、HEMSなどの活用)

住まいの安全・安心の確保
(防犯、見守り、防災)

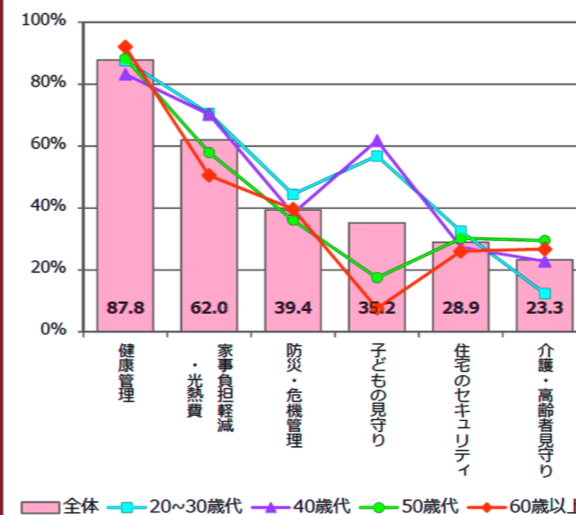


スマホと連動したドア・窓の鍵のかけ忘れ確認、見守りサービス



生産性・利便性の向上
(家事の効率化、再配達率の低減など)

■年代別に見た6テーマに対する関心の高さ



実際、消費者はIoTにどんなことを期待しているのでしょうか。国交省による消費者向けのアンケート調査では、「健康管理」「家事負担軽減・光熱費削減」の2つで高い傾向が見られ、年代別では20歳代~40歳代の子育て世代では「子供の見守り」が「防災・危機管理」を上回っていたそうです。共働きの子育て世代にとっては、子供の帰宅をスマホに通知してくれたら、ドアや窓のロックを遠隔で操作できたら安心ですね。ただ、課題も多くあります。生活者の動態をセンサーやカメラで記録すれば「個人情報」となり、機器がインターネットに繋がれば情報流出のリスクも生じます。停電やネットワーク障害でサービスが停止した時の対処や、責任の所在など…。これらの課題を乗り越え、利便性の高いサービスが提供されるようになれば、私たちの生活環境は大きく変化することでしょう。可能性はどんどん広がっています。近い将来、どんな暮らしが待っているのか楽しみですね!

(文中のイメージ図とグラフは国土交通省「IoT技術等を活用した次世代住宅懇談会」の資料より引用しています)